

南国を募集



9月30日
までに申込を

- ◇応募資格：高校卒業以上で満十八歳～二十五歳、市内に住んでいる健康な未婚の女性。
- ◇応募方法：履歴書に身長・体重・バスト・ウエスト・ヒップを記入のうえ、手写真を添付して申込ください。
- ◇応募先：市役所内南国市観光協会（電話2111）まで。
- ◇応募締切り：九月三十日（土）

- ◇第一選考：十月三日（火）書類審査。
- ◇第二選考：十月十五日（日）面接。
- ◇発表：十月二十日（金）
- ◇募集は、ミス南国一名、準ミス南国二名。以上三名には表彰状とトロフィーが授与されます。また、これらの人には、観光事業にむこう一年間随時出務していただきます。
- ◇お気軽にどしどし応募ください。

（南国市観光協会）

あなたの顔を差しあげます

広報紙にのったあなたの写真を差しあげます。ご希望の方は企画財政課広報聴係へ、ハガキ、電話（3-2111）でどうぞ。



計画法線（山手案） 決定の理由

(1)海岸案…海岸堤防周辺には全線にわたって閑芸ハウスがあり、これを撤断して道路を建設したとしても沿線の開発は望むべくもなく、この道路が地域住民への福祉には寄与せず、ただの通過交通路線となる恐れがあります。しかも、この海岸堤防は建設省の直轄管理区域で、近々堤防改修計画が立案される予定で、国有地を利用して道路を建設することは不可能となりました。また、経済投資効率からも不利となります。

(2)現道拡張案…沿線に住家が密集し、この移転には莫大な補償費が必要となります。また、工事中の通行止めや環境面、および経済投資効率なども対照にならないほど不利となります。

(3)山手案…(1)(2)案と比較して本路線（案）は、南国市の将来の発展性、利用価値および環境などを十分勘定したうえで最適な法線であると考えられ、これを採択することにしています。

今後の作業

当管内の路線延長約八千四百メートルの全区間を五工区に分けて、さしあたり一、四工区間（約六千九百メートル）の平面図を現地に立入って実施測量し、地元説明会を順次開催していきたく考えています。

この会で、計画法線の了解が得られれば五十三年度中に一工区と四工区の丈量測量を行い、用地交渉を開始していきます。

なお、五工区については、現在の空港拡張条件との関連で計画法線の決定は多少遅れることが予想されます。

以上のようなことが示され、測量図作成のうえ区域の説明会を開催します。主旨をご理解いただき測量の立ち入りについてはご協力くださるようお願いいたします。と、理解と協力を呼びかけています。

新教育委員長に 藤本茂樹氏

南国市教育委員会は、さる七月三十一日の会で、島本委員長（58）を退任し、新委員長に日章で会社経営の藤本茂樹氏（58）を選ばれました。

新体制は八月一日より次の方々でスタートしました。

委員長 藤本茂樹
副委員長 福岡弘幸
委員 島本保義
田内修治
門田真一（教育長）

「黒潮ライン」= 県道春野赤岡線

測量をしたうえで 計画案を作成したい

今までの経過

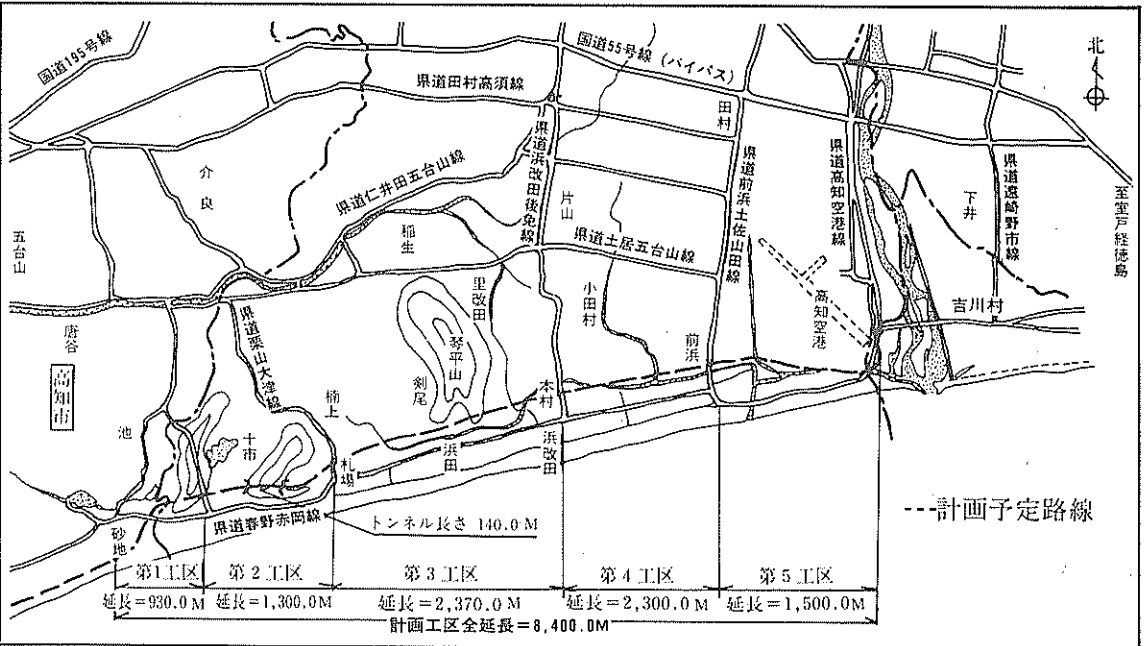
昭和四十八年度、この路線に対して建設省より改良事業の認可が降り、航空写真により路線計画をたて関係住民などに知らせるが、海岸線、現道拡張案、山手案の三案で意見がわかれまわりました。それぞれの意見を調整し、南国市の将来の発展性や利用価値、環境などを考え、また、通過交通路線となつて地元へ不利益をもたらさないように学識経験者および地元住民などの意見も交え、一応山手案に決まり計画を進めてきたが、いろいろの問題が生じて、実施測量ができずに現在に至っています。

しかしこの間、南国市に接続する高知市側は、現計画案で実施側量も完了し用地買収に入っていたが、五十三年度で全工区の買収を終り、いよいよ本工事着工の運びとなっています。

南国市側も、空港周辺整備事業とからみ、少なくとも六十年度には一部完成可能なことも予想されるので、早急に実施測量に入り、計画案を作成したいと考えています。

工事概要

南国土木事務所管内の全延長約4,800m。このうち、トンネル約140m。
総事業費約30億3,200万円。ただし、これは48年度事業費概要を53年度年に換算した金額。



地権者や付近住民、関係機関の理解と協力を

昭和四十年代から懸案となつている「黒潮ライン」は主要国道春野赤岡線。このほど、この黒潮ラインについて「従来の計画案をもとにして現地に立入り、実施測量をしたうえで建設計画（案）を作成したい」と、高知県南国土木事務所長から改良計画案や今後の作業などが示され、地権者や付近住民、関係機関に対して「今後の作業実施について理解と協力をお願いします」との協力要請がなされました。

県道春野赤岡線は、道幅が狭いうえ、他に代替路線もないことから定期バスも満足に走れない状態。また、交通量も年々増加しており、

悲惨な交通事故防止の面からも早期の改良、整備が望まれています。こうしたことから県によって、観光と交通渋滞緩和を兼ねて着々整備され十年近く経たない現在、高知南国両市を除いて計画どおりほとんど完成されてきているものです。